

令和6年度 江戸川区立春江中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○自ら進んでよく学び、協力して働く生徒 ○規律を守り、責任を重んずる生徒 ○心身ともに健康で、思いやりのある生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○未来を主体的に生き抜く力を育む学校 ○「なりたい自分」に向けて、目標を立て進むべき道を自らの力で切り拓く生徒 ○生徒の「今」を充実させ「幸せ」にすること、「未来を担う人づくり」に努める教師
前年度までの本校の現状	成果	・教職員が生徒の視点に立ち、寄り添う支援型指導を行い行事や授業などに取組み、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。 ・研修や教員同士が互いに教えあう環境が整い、学校全体でのデジタル化が定着している。「オクリンク」「ミライシード」「ムーブノート」の利用率が江戸川区内中学校で1番高い。	課題	・基礎学力の定着と興味・関心・探求心をもって生徒が自ら学びに向かうこと。 ・生徒が自ら考え、その場の状況に臨機応変に対応し自らの行動を適切に律し、責任を果たせるよう行動する力を身につけること。 ・やむを得ず登校できない生徒が多い現状の中で、エンカレッジルームを通して学びの場を確保して「誰一人取り残さない学校」とすること。不登校生徒の継続数の減少および新規数の抑制を図ること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○研究推進校の取組 ・単元テストの実施 ・手帳を活用した自己管理 ・ルーブリック評価の導入	・3つの分科会で仮説、検証の研修を行う。 ・各教科で単元が終わるごとに小テスト、単元テストを実施。 ・「ミライシード」の積極的な活用。 ・Foresight手帳の活用	・生徒向けアンケートで「わかりやすい授業」という項目で肯定的な意見を80%以上にする。	B		B	・分科会で有意義な活動ができている。 ・ミライシードの1人あたりのアクセス数が中学校で1番であった。Foresight手帳を用いて自己管理を促す指導が確立されつつある。	B	・研究校としての取組が良い。他の学校の先生にも春江中学校の授業態度の良い点を見てもらいたい。					
	○読書科の更なる充実	・調べる学習コンクールを活用して課題解決型学習、探求型学習の実践 ・読書科でPOPの他学年合同展示を実施	・図書室の入館率を前年度より10%向上させる。 ・調べる学習コンクールの入賞を目指す。	B		A	・調べる学習やレポートの本を借りに来る生徒が増加したのは新しい発見である。結果的に入賞者も増加している。 ・自習室としても活用して利用する生徒も増加している。	A	・図書館のレイアウトが素晴らしい。 ・生徒が読みたい本、学びたい本を購入してもらいたい。					
体力の向上	○生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現	・体力・運動能力調査等の結果を検証して生かす。	・投力の数値を都平均まで向上させる。	C		B	・投力は全国、東京都ともに平均を下回った。投力だけではなく体力全般の向上につとめていく。	B	・運動が嫌いな生徒へ運動を好きにさせるのは大変だと思う。機材を使って工夫した授業をしているので素晴らしい。					
	・授業の補強運動（5分）を年間実施。	・運動が好き、楽しいとなる生徒を70%以上にする。	C		C	・補強運動に加えて保健の授業で生涯に渡って運動に親しむことの大切さを指導していく。	B							
教育の推進 実現に向けた	○共生社会の実現を目指したユニバーサルデザインの推進	・教室前方へカーテンを配備する。 ・文書の文字のUD化をする。	・学校からの文書をUDフォントで作成、配布をする。	A		A	・学校が作成する文書についてはUDフォントで作成している。引き続きユニバーサルデザインの推進を継続していく。	A	・先生だけではなくSCなどの専門家からも意見を聞いたりしながら進めているので安心した。					
	○多様な学び場の確保	・校内別室指導支援員の見守りや校内教育支援委員会で情報を共有した支援の充実	・週1回の校内支援委員会の実施、SSWとの情報共有および学習サポートを含めた関係諸機関と連携を図る。	B		A	・校内委員会で情報共有をおこない、支援策を協議。SC、SSWをいれ支援を決定している。学習支援が課題。	A						
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校が生じない魅力ある学校づくりの推進	・いじめ防止基本法に基づいた対応と生徒の実態に応じた支援を行う。 ・hyper-QUを全学年で実施する。 ・生徒の心のSOSを見逃さない。	・年3回のアンケートを実施し、いじめを見逃さない体制を継続する。 ・hyper-QUの結果を共有して活用する。	A		A	・アンケートを学期ごとに実施。昨年度より件数は増加したが、生徒の話聞いて保護者と連携して解決に向けて指導できた。引き続き生徒からのSOSに目を向けていく。	A	・家庭から全く出ないでいる生徒の対応を引き続きお願いしたい。 ・エンカレッジルームを改良して生徒が安全に学べる環境があるのは良いこと。オンライン授業も実施していて、いつでも授業が受けられて素晴らしい。					
	○エンカレッジルームの充実	・エンカレッジルームを充実させ、個別ブースを確保する。 ・生徒の実態に応じた学校ルールの運用、デジタル機器で学習支援をする。	・毎日オンライン授業の実施 ・校内教育支援委員会を週に1回実施し情報を共有する。 ・不登校生徒、新規不登校発生率を昨年度より下げる。	A		A	・安心して学べる場所としてERを使っている。授業、始業式などはオンライン配信で対応できている。	A						
学校の実現 開かれた地域社会に	○学校公開の実施およびホームページの充実	・学校公開を実施する。 ・学校HPを更新する。 ・学校だより、学年だよりを配布する。	・年4回の学校公開（道徳公開を含む）を実施する。 ・1週間に7回はHPを更新して学校の様子を掲載する。	A		A	・行事や生徒の様子を写真を入れながらHPへ掲載している。 ・学校便り、学年便り、月行事予定など月1回更新している。	A	・HPで生徒の様子が分かるのはよい。 ・学校便りが定期的に郵送されているので校長の考え、生徒の活躍が知れる良い機会。					
	○教育活動の充実と発展	・学校評議員会での意見を集約し学校経営へ生かす。	・学校評議員会を年2回実施する。 ・年2回保護者アンケートを実施する。	B		B	・学校評議員を3回実施し、地域の意見を聞いて改善していく。	A						
教育の展開 特色ある	○デジタル機器を活用した学習の推進と家庭学習の定着	・家庭学習定着のために「ミライシード」「オクリンク」「ムーブノート」を授業で積極的に活用する。	・デジタル学習アプリの利用率を区内中学校の3位内にする。	A		A	・オクリンク、ミライシードの利活用ができている。	A	・中学生を活用した防災教室はとても良い。町会でも実施していきたい。 ・先生方の働き方を見直し、全員が輝いている学校を作ってもらいたい。					
	○防災教育の充実と推進	・防災教室を実施する。町会、関係諸機関も参加し防災への意識を啓発を促す。 ・事前指導でHUGを実施する。	・11月に防災教室を実施する。 ・HUGを事前指導で実施して防災意識を高める。	A		A	・11月の実施に向けて関係諸機関との連絡、打合せ（10/8）を実施する。	A	・授業で普通にタブレットを使っている光景があり、驚きと共に先生方も良く勉強されていると感動した。					
	○学校に関わる全ての人のウェルビーイングを目指す	・教職員の負担や業務の平準化を進める。 ・年休、育児関連休暇などの取得を推奨する。	・業務の精選をおこない、育児関連休暇の取得率を前年度より5%上昇させる。	A		B	・業務の見直し、適正な業務になるように改善を継続している。 ・休暇の取得状況も良い。	B						